

参加校

北海道釧路湖陵高等学校
青森県立青森高等学校
青森県立八戸高等学校
八戸聖ウルスラ学院高等学校
岩手県立一関第一高等学校
岩手県立花巻北高等学校
岩手県立盛岡第一高等学校
秋田県立角館高等学校
山形県立山形東高等学校
山形県立東桜学園高等学校
山形県立長井高等学校
茨城県立水戸第一高等学校
清真学園高等学校
東洋大学附属牛久高等学校
栃木県立宇都宮高等学校
栃木県立宇都宮東高等学校
栃木県立大田原高等学校
栃木県立真岡女子高等学校
作新学院高等学校
群馬県立太田女子高等学校
埼玉県立浦和高等学校
埼玉県立浦和第一女子高等学校
埼玉県立川越女子高等学校
千葉県立千葉高等学校
千葉県立船橋高等学校
芝浦工業大学柏高等学校
翔凍高等学校
東邦大学付属東邦高等学校
筑波大学附属駒場高等学校
東京都立日比谷高等学校
東京都立千早高等学校
東京都立三田高等学校
東京都立武蔵高等学校
桜丘高等学校

渋谷教育学園渋谷高等学校
獨協高等学校
品川女子学院高等部
東洋英和女学院高等部
山崎学園富士見高等学校
神奈川県立湘南高等学校
神奈川県立厚木高等学校
神奈川県立相模原高等学校
神奈川県立多摩高等学校
神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校
神奈川県立柏陽高等学校
神奈川県立横須賀高等学校
神奈川県立横浜翠嵐高等学校
浅野高等学校
栄光学園高等学校
慶應義塾高等学校
湘南白百合学園高等学校
聖光学院高等学校
洗足学園高等学校
神奈川県立朝鮮中高級学校
福井県立藤島高等学校
山梨県立甲府西高等学校
長野県長野高等学校
長野県伊那北高等学校
長野県諏訪清陵高等学校
長野県松本県ヶ丘高等学校
長野県屋代高等学校
岐阜県立岐阜高等学校
静岡県立清水東高等学校
静岡県立吉原高等学校
愛知県立半田高等学校
東海高等学校
南山高等学校女子部
大成高等学校

三重県立四日市高等学校
滋賀県立彦根東高等学校
京都府立嵯峨野高等学校
京都市立堀川高等学校
京都市立日吉ヶ丘高等学校
京都橘高等学校
ノートルダム女学院高等学校
立命館高等学校
大阪府立北野高等学校
大阪青凌高等学校
関西創価高等学校
関西大倉高等学校
神戸大学附属中等教育学校
神戸市立葺合高等学校
雲雀丘学園高等学校
松蔭高等学校
奈良県立奈良高等学校
開智高等学校
鳥取県立鳥取東高等学校
鳥取県立鳥取西高等学校
岡山県立岡山大安寺中等教育学校
宇部フロンティア大学付属香川高等学校
徳島県立城ノ内中等教育学校
徳島県立徳島北高等学校
福岡県立城南高等学校
福岡県立香住丘高等学校
熊本県立八代高等学校
真和高等学校
大分県立別府翔青高等学校
鹿児島県立甲南高等学校
鹿児島県立鶴丸高等学校
沖縄県立向陽高等学校
沖縄県立具志川高等学校

合計 101 校

キーノートスピーカー



安野 貴博氏

チームみらい党首
AIエンジニア・起業家
SF作家



伊藤 真利子氏

東京大学生産技術研究所
人間・社会系部門、
複雑社会システム研究センター
特任講師



沼田 貞昭氏

一般社団法人日本英語交流連盟名誉会長
元駐カナダ・パキスタン大使、元外務報道官
在日カナダ商工会議所名誉顧問会長



文部科学省後援 第11回 PDA高校生 即興型英語ディベート 全国大会

The 11th PDA High School Parliamentary Debate
National Competition

2025年12月23日🔥・24日💧

— 会場 —

東京大学 生産技術研究所 An棟
オンライン(Zoom)ハイブリッド

【主催】一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)

【共催】東京大学生産技術研究所、大阪公立大学

【後援】文部科学省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、全国高等学校長協会、
一般社団法人 日本英語交流連盟、
一般社団法人 日本高校生パーラメンタリーディベート連盟

【協賛】東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス(ONG)、
公益財団法人 Tazaki財団、一般社団法人 国際教育英語試験協会

【助成】公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI財団、一般財団法人 三菱みらい育成財団

ごあいさつ

東京大学生産技術研究所 所長・教授

第11回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会の開催場所として本所をお選び頂き光栄に存じます。近年のAI（人工知能）の発展には目を見張るものがあり、ほぼ実時間で音声が多言語翻訳できるようになりました。だからといって、人間のディベート能力開発を疎かにしてよいわけではありません。哲学者アリストテレスが指摘したように、聞く者に伝わるためにはロゴス(logos)、エトス(ethos)、パース(ethos)、パース(ethos)が必要です。ここではそれらを論理的思考、道徳・倫理観、情熱と訳しましょうか。参加の皆様には、表面に現れるディベート技術だけでなく、その背後にあるものに気づいていただきたい。いつになっても、人を感動させるものは人であって欲しいものです。



東京大学 生産技術研究所 所長・教授
年吉 洋(としよし ひろし)

PDA代表理事

文部科学省後援 第11回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会へのご参加、ご見学をありがとうございます。今年は、過去最多の学校数にご参加いただき、多くの皆様と東京大学でハイブリッド開催できることを大変嬉しく思います。

近年、生成AIを含む技術は急速に進化し、学びのあり方や情報の扱い方にも新しい選択肢をもたらしています。PDAでもAIディベートシステムの開発や活用を進めていますが、このような技術が進展する今、「AIが高度化する時代に、人間がディベートを行う意味」について考えることは重要であると感じています。AIは情報の収集や整理に優れていますが、議論の場で人を動かすのは、情報そのものだけではありません。そこには、話し手がもつ経験や価値観、その人だからこそその発想、そして伝えようとする熱量が存在します。ディベートでは論理が基本にありますが、社会において説得する相手はロボットではなく人間です。だからこそ、その人がどう世界を見ているのか、どのような背景からそのような考えに至ったのかといった、話し手固有のストーリーや観点が、議論の説得力そして人を動かす力の一部となると思います。

AIの活用と人間の思考をどのように組み合わせていくのかは、これからの社会における重要なテーマです。本大会でのディベートが、皆さんにとって、英語力、論理的思考力、幅広い知識、コミュニケーション力、プレゼンテーション力といった各種スキルを向上させる機会になることはもちろん、AIと共存する時代における「人間が自ら考え、伝え、議論すること」の意味を改めて考えてディベートするきっかけにもなれば幸いです。

本大会では、社会課題をより深く理解するための専門家によるキーノートスピーチも設けています。視点の幅を広げ、さまざまな価値観に触れる機会としてご活用いただければと思います。

最後になりましたが、本大会の開催にあたりご協力くださった関係各位に、心より感謝申し上げます。



一般社団法人
パーラメンタリーディベート
人財育成協会(PDA)代表理事
中川 智皓(なかがわ ちひろ)

大阪公立大学
工学研究科機械工学分野 准教授
内閣府 上席科学技術政策フェロー
東京大学生産技術研究所
リサーチフェロー

一般的に、ディベートと聞くと、「論破」や「言い負かす」といった対立的で緊張感のあるイメージを抱かれる方もいらっしゃるかと思います。しかし、PDAの即興型英語ディベートは、互いを尊重しながら、限られた時間で思考を組み立て、教育的配慮を最大限活かす設計をしています。50分で準備・実践・ジャッジまで完結する工学的設計は、学校現場でも導入しやすく、単に記憶や論理的思考といった「知能」を鍛えることに留まらず、共感や慈愛といった要素を含む「知性」を育む形式です。

タイムスケジュール

12月23日(火)

12:00 受付
13:00 開会式、対戦表発表
13:20 ジャッジブリーフィング
13:30 R1論題発表、準備
13:45 R1ラウンド実践
14:05 R1ジャッジ
14:45 R2論題発表、準備
15:00 R2ラウンド実践
15:20 R2ジャッジ
15:50 レクチャー
16:30 R3論題発表、準備
16:45 R3ラウンド実践
17:05 R3ジャッジ
17:45 R4論題発表、準備
18:00 R4ラウンド実践
18:20 R4ジャッジ(クローズ)
18:30 終了

12月24日(水)

09:30 受付
10:00 準々決勝進出チーム、ジャッジの発表
10:30 準々決勝論題発表、準備
キーノートレクチャー①
10:45 準々決勝ラウンド実践
11:10 昼休み
12:10 準決勝進出チームの発表
12:15 準決勝論題発表、準備
キーノートレクチャー②
12:30 準決勝ラウンド実践
12:50 休憩
13:15 決勝進出チームの発表
13:20 決勝論題発表、準備
キーノートレクチャー③
13:35 決勝ラウンド実践
3位決定ラウンド実践
14:00 休憩
14:15 表彰式
15:15 終了

文部科学省・外務省後援 第11回PDA高校生パーラメンタリーディベート世界交流大会

優勝・準優勝・第3位、授業導入優秀校の合計約5校に、2026年1月開催の第11回PDA高校生パーラメンタリーディベート世界交流大会への出場権を進呈します。

[日程] 2026年1月22日(木)・23日(金)

[場所] オンライン(Zoom)

[参加国] 海外より12か国、日本より5チーム程度